

ほっかい新報

2011年 週刊 月3回発行
(第1・2・3日曜日)

2月6日(第1829号)

発行所 ほっかい新報社

060-0806 札幌市北区北6条西7丁目
電話 011(726)4858
北洋銀行(普)0576770
Eメール:hokkaisinpoo@gmail.com

定 価 月ぎめ 230円 1部80円(〒120円)
年ぎめ 2,760円(〒1,440円)

「子どもの瞳が輝き 安心して暮らせる北海道」を 宮内聡氏、「明るい会」と北海道知事選挙で政策協定に調印



「子どもの瞳が輝き安心して暮らせる北海道」をテーマにした政策協定調印式。右から宮内聡氏、花岡、菊地、真下、金倉、松永、岡の各氏。

住民の暮らしと福祉守る防波堤に 憲法を生かす道政つくろう

暮らし応援の道政

1月28日、札幌市内で「明るい革新道政をつくる会」と宮内聡氏の間で、北海道知事選挙政策協定に調印。続いて宮内氏の立候補表明記者会見が開かれました。

甲斐基男「明るい会」代表委員から、宮内聡氏に、「明るい会」の候補者として無所属での立候補を要請(1月21日)、昨日、受諾の返事を受けたと経過報告があり、甲斐代表委員と宮内氏の間で政策協定書にサインが交わされた後、宮内氏の記者会見に移りました。

宮内聡氏、記者会見で決意語る

宮内氏は、「明るい会」から要請を受けたあと、「高すぎる国保料を下げ」「道立高校の統廃合をやめて」「住み続けられる地域にして」「仕事に就けません」：「私たちの要求を実現する知事になってほしい」などと、たくさんの方々から激励をいただいた。と立候補要請を受諾するにいたった経過を述べ、「あなたの願いにこたえる北海道

を、宮内聡と一緒に実現させよう」と呼びかけ、決意を語りました。

決意の第1は、住民の暮らしと福祉を守る防波堤になること。地方自治体の本来の役割「住民の福祉の増進を図る」ことに真正面からとらえます。

北海道は国の悪政によって地域社会の破壊が深刻です。特別養護老人ホームの待機者の激増と「老々介護」、非正規雇用の拡大、中小企業の倒産・廃業、商店街がなくなり日常生活が困難な地域が広がっています。

道政が国の悪政から住民を守る「防波堤」の役割を果たすのが鋭く問われているのが今度の知事選挙です。私は「防波堤」となり「住民の暮らしと福祉を守る」という自治体本来の役割を果たす知事になります。

福祉優先で道民の暮らしを応援する、安心して暮らせる地域をつくり出す。暮らしと地域経済に活気をつくり出す。北海道の地域経済の根幹を担っている中小企業を応援します。循環型経済をつくることを提案します。

TPPは道内農業生産や関連産業への影響は2兆1千億円。雇用が17万

3千人減少となり絶対に認められません。私はTPP反対の先頭に立つ知事になります。

第2は、日本国憲法を暮らしに生かす道政をつくり出す。

憲法9条をもとに非核平和の道政を築きます。子育て、貧困対策などもしっかりと位置づけます。「通報制度」など教育への不当な管理統制はやめて、教育の自主性を確立します。

民主党がすすめる「地域主権改革」は住民福祉の切捨てや地方自治の破壊であり、反対を貫きます。

私は大学で社会福祉を学び、医療の現場で働きました。お金がなくて病院にかかれない患者さんの姿をみて「政治を変え

し、共同を二層強めること、など4点。⑤憲法を暮らし、平和、教育に生かす。米軍の矢別演習場での夜間、白リン弾等の訓練中止を、など4点。⑥豪雪被害に対する有効

道民に冷たい道政をおもとから切りかえ、地域社会と地域経済を応援する道政に転換させる決意です。

「明るい会」の加盟団体は、子育て・教育、雇用対策、医療・福祉、公共事業、平和など各分野で運動に取組み、願いを前進させてきました。私

道民に冷たい道政をおもとから切りかえ、地域社会と地域経済を応援する道政に転換させる決意です。

「明るい会」の加盟団体は、子育て・教育、雇用対策、医療・福祉、公共事業、平和など各分野で運動に取組み、願いを前進させてきました。私

1983年です。「明るい会」が初めての知事選挙に候補者を擁立し、私は「広谷陸男」と書いて投票しました。私は昨年、生まれ、年男です。躍進して新しい北海道の政治をつくること「子どもの瞳が輝き安心して暮らせる北海道」をつくるために全力つくします。と力強く決意を語りました。

2月12日(土)13時30分～
札幌市民ホール
日本共産党(札幌東区・北区)演説会
弁士：小池晃中央委員会政策委員長
金倉まさとし東区道議候補/岡ちはる北区道議候補/宮川じゅん東区市議/太田秀子東区市議候補/坂本恭子北区市議
日本共産党東区地区委員会 011-712-42608
日本共産党北区地区委員会 011-747-2919

日本共産党北海道委員会と党道議団(花岡ユリ子団長)は1月26日、2011年度当初予算編成に関して、高橋はるみ知事に対して重点要望書を手渡し懇談しました。要

請行動には、真下紀子幹事長、金倉まさとし・札幌東区道政対策委員長、岡ちはる・札幌北区道政対策委員長、古岡ともや・党函館地区道政対策委員長、菊地葉子党小樽地区

を、など8点。②地域で安心して暮らせるよう、福祉、介護、医療など社会保障の充実を「高すぎる国保料(税)」の引下げと国保証取り上げをやめよ、医療を受ける権利を

に、共同を二層強めること、など4点。⑤憲法を暮らし、平和、教育に生かす。米軍の矢別演習場での夜間、白リン弾等の訓練中止を、など4点。⑥豪雪被害に対する有効

速やかな豪雪被害対策を緊要望

日本共産党北海道委員会と党道議団(花岡ユリ子団長)は1月21日、高橋はるみ知事に対して、記録的な豪雪のためJRやバス的大幅な遅延・運休の続発、通学路が確保されていない、ゴミ収集の遅延、ビニールハウスが倒壊するなど、大雪による被害は市民生活と地域経済全体に及んでいる事を指摘。①豪雪対策本部設置、②国及び開発局

に、国道の除排雪予算の復元を要請すること、③道々の除排雪に徹底を期すよう予算措置を拡充すること、など道として速やかに有効な対策をとるよう8点にわたって要望しました。

申入れには金倉、菊地、宮内各氏と畠山和也党道政策委員長も参加しました。



知事に申入れ一古岡、菊地、花岡、真下、金倉、松永、岡の各氏

道政相談室長、松永としお・党釧根地区道政対策室長が参加しました。

要望は、①地域に根ざした産業振興への転換で仕事と暮らしを守る。住宅リフォーム条例をつくり、事業の積極的な推進

守る、など5点。③子育て支援の強化とゆきとどいた教育を「子どもの通院医療費無料化を小学校卒業まで拡大すること、など6点。④基幹産業である農林漁業の振興をTPPへの参加に反対

道政相談室長、松永としお・党釧根地区道政対策室長が参加しました。

要望は、①地域に根ざした産業振興への転換で仕事と暮らしを守る。住宅リフォーム条例をつくり、事業の積極的な推進

守る、など5点。③子育て支援の強化とゆきとどいた教育を「子どもの通院医療費無料化を小学校卒業まで拡大すること、など6点。④基幹産業である農林漁業の振興をTPPへの参加に反対

豪雪が道民生活を窮地に陥れている。しかし道民のいのち・くらしの災難は自然にあるだけではない。北海道の地域・自治の再生をみんなで作る(道自治研主催)シンポが1月末、道建設会館大ホールで開かれた。標茶、富川、富良野、夕張など各地から120人、うち50数人は会員外の参加▼閉会あいさつで河合博司酪農大教授は「活発な発言議論をいただいた。フロアからの発言も13名、双方向のキャッチボールができた。▼今回の議論をまとめ返していく、帯広や名寄の「まち研」ができ、現場に学びを普遍化する、今日の転換期を国と道の役割、何より足もとを見つめ直して打開したい」との提案が心を打った▼小田清理事長は、閉塞感ただよい、道経済の停滞が続くが、地域発展の共通の理解のうえに閉塞を打破する道をさぐるシンポにしようと呼びかけた▼西村宣彦北海学園大准教授は、「第二の夕張になる！」の喝喝は「歳出削減・住民負担やむなし」の空気を浸透させたがどこにもない。総務省幹部が「ありえない話」と回想している、とのべき驚きをよんだ▼改めて夕張の教訓を考えると、幅広い共感と説得力をもてる提案を、住民アンケート、聞き取り、住民実態調査を重ねることだ。



「溪仁会札幌西田山病院 峯廻攻守院長に 岡ちはる党道・福祉くらし対策委員長が聞く」

入れる金があるのなら国民のために使えと言いたいですね。

入れる金があるのなら国民のために使えと言いたいですね。
そもそもTPPに参加し農業分野の関税が完全に撤廃されれば、日本の農業がつぶされてしまうことは一目瞭然です。これには私たちが医療人もだまされては行けません。国民の食の安全を守ることが、健康づくりに直結するものなんです。食料自給率を高めないければならない時に、逆行しています。食と農を守る意味でも私は反対です。

依拠せざるをえないという苦しい側面があるということですね。
医療、社会保障は社会的共通資本

医療をめぐる基本は命を守ることだと思いが、
「医療、社会保障は社会的共通資本」

TPP参加で医療・介護、福祉などに 命に格差

TPP（環太平洋連携協定）の問題では、日本医師会も見解を出してありますが、どんな影響があるのでしょうか。

「命に格差」というのは、向き有効な支援のようですが、背景にはそういうことがあるといいます。

TPPに参加すると医療や介護、福祉などにどんな影響があるか、溪仁会札幌西田山病院峯廻攻守院長に岡ちはる党道・福祉くらし対策委員長が聞きました（1月20日）。
TPP（環太平洋連携協定）の問題では、日本医師会も見解を出してありますが、どんな影響があるのでしょうか。

「命に格差」というのは、向き有効な支援のようですが、背景にはそういうことがあるといいます。

混合診療と株式会社への参入も
峯廻「日本の医療従事者もTPPと医療事業がどう結びつくのか。
判りやすくいうと規制緩和で、混合診療の全面解除、もう一つは株式会社への参入を許す可能性があるという事です。

混合診療と株式会社への参入も
峯廻「日本の医療従事者もTPPと医療事業がどう結びつくのか。
判りやすくいうと規制緩和で、混合診療の全面解除、もう一つは株式会社への参入を許す可能性があるという事です。

「命に格差」というのは、向き有効な支援のようですが、背景にはそういうことがあるといいます。



南幌町 熊木恵子さん

お知らせ

- ◎500円/アグリ企画 011-851-4087
- 第17回インカルシペアイヌ民族文化祭ミュージックコンサート
- 2月6日(日)13時〜札幌アイヌ文化交流センター(南区小金湯27番地) 011-596-1610
- 2・11 思想と信教の自由を守る苦小牧集会
- 11日(金)13時30分〜アイビープラザ学習室3
- 「砂川政教分離住民訴訟の最高裁違憲判決の現時的意義」自治体・町内会と神社の関係者はどうすべきか」石田明義・弁護士/連絡0144-751-3608
- 憲法と思想の自由を求めて
- 2・11 別平和集会
- 11日(金)13時30分〜江別市野幌公民館
- 「2月11日に憲法を語る」鈴江英一・元道教育大学教授/◎300円/実行委011-384-0094
- 「食料主権」は世界の流れ 日本の食と農業を考える
- 12日(土)13時30分〜札幌教育文化会館(北1西13)
- 「考える力」小椋山博・作家/「農業の大切さと厳しさ」富沢修一・農業
- 「多喜二の青春」宮田汎・治維法同盟道会長/「時代閉塞の現代と啄木」北島立朴・啄木研究家/◎500円/実行委0154-137-9064
- 小樽 多喜二祭
- 20日(日)幕前祭13時30分〜奥沢墓地 講演と音楽の夕べ
- 18時30分〜市民センターマリンホール(色内2丁目)
- 「草稿ノートから見る文学の生成」小林多喜二と井上ひさし 島村輝・フェリス学院大教授/◎1000円/実行委0134-32-8560
- 釧根の農林漁業と地域経済を考えるシンポジウム
- 20日(日)10時30分〜釧路町遠矢コミュニケーションセンター
- 基調講演「TPPとは何か」(仮題) 田代洋一・大妻女子大教授 01537-7-2369

インタビューを終えて
岡ちはる
生きることは食べ、
「生きることは食べ、健康づくりに重要ですが、日本の国で作られた安心・安全な食料を国民が消費する、地産地消という社会を守るための声を上げていかなければなりません。命の格差を許していいのかわかりませんが、それだけでも、規制緩和による社会保障分野にも重大な影響を及ぼすことをわかって話すのをやめました。事実を広く知らせ、私たちの未来を守らなければ、そのために私は全力で頑張ります。(北区道議候補)

志位 和夫 きたる 3月5日